

「白鷹町庁舎等施設再配置計画」パブリックコメントについて

平成25年1月9日から1月25日までに行いました「白鷹町庁舎等施設再配置計画」パブリックコメントに、4者（個人・団体）から意見が寄せられました。その意見と回答は以下のとおりです。

▼意見1 新設する防災センター・中央公民館・図書館の機能は一部「あゆ一む」と重複しているように感じる。今後、「あゆ一む」との施設間の相互運営など、連携を検討することは可能か。また、「あゆ一む」は災害時にどのような役割を担うのか防災センターとの違いを明確化することは可能か。一時避難場所として「あゆ一む」を使うことなどの検討は可能か。

▽回答1 今回の計画は現在の庁舎敷地内に、現行の施設を再配置したグランドデザインを示すものとしております。実際の建設にあたっては、ご意見を頂きました「あゆ一む」との連携、詳細な機能などを十分に検討していきたいと考えております。

また、防災計画上避難所と指定しております「あゆ一む」との関係も現在策定中であり、また新たな「白鷹町防災計画」のなかで整理したいと考えます。

▼意見2 防災センターは、単なる会議室にしか見えないが、具体的に何を行うのか。その機能を「あゆ一む」や分庁舎、既往庁舎などに複合させることの可能性の検討は可能か。防災司令室は災害時の即時対応など機能上重要で、町長のいる庁舎内に設ける機能と考えられるが、庁舎と分棟とする理由はなぜか。将来新築した庁舎に移設する可能性の検討は可能か。

▽回答2 防災センターは非常時の災害対策本部、平時は生涯学習の中心拠点である中央公民館としての利用を考えております。機能の詳細については実施設計の段階で検討していきたいと考えております。

また、（仮）防災司令室につきましては、将来新庁舎を建築した場合の移設の検討が必要と認識しております。

▼意見3 町の顔でもある庁舎や防災センターなどは、環境への配慮や自然エネルギーの活用などグリーン庁舎の実現に対する取組みは必要不可欠と考える。本計画ではそのような配置検討を引き続き行うことは可能か。採光、通風に配慮して建物の配置を南面（真南）することは検討可能か。

▽回答3 ご指摘のとおり、今後の公共施設の整備において、防災時の対応やエネルギー施策の一環として再生可能エネルギーの導入などは必ず視野に入れていくべき項目と認識しております。

配置につきましては、現在の施設を活用した上での整備という観点から、計画(案)のようなかたちを示しております。

---

▼意見4 配置図を見ると、敷地に十分な余裕がある。48m×18mの庁舎の建築面積(フットプリント)は、どのような理由で決定したのか。フットプリントを大きくして、2階建てにするなどの検討は可能か。

▽回答4 今後の行政組織規模との調整もありますが、十分可能だと思われます。

---

▼意見5 今回の計画では駐車場の位置や台数などが一切言及されていないが、車は生活に必要な不可欠なので、バスや車いす駐車場、車回しなどの導線計画も含めた配置計画の検討は可能か。

▽回答5 安全に配慮した交通導線の設定や、十分な駐車スペースの確保には十分配慮していきたいと考えております。

---

#### ▼意見6 「質実剛健」

私たちが、長く忘れていた人々の原動力になっていた美徳を取り戻す基本骨子と位置づけたい。

循環型社会、来るべき地域主権時代に対応でき、人と環境にやさしい質実剛健な行政拠点施設の整備。

▽回答6 独自の「質実剛健」というコンセプト、木造を基本とした構造と配置のグランドデザインをご提案いただき誠にありがとうございます。木材利用は、今後の公共施設の整備に関し重要な視点と認識しております。実際の建設段階で、耐火性、構造、費用等を総合的に検討していきたいと考えております。

(仮称)防災センターにつきましては、災害時の拠点となることを考慮し、現在は西置賜行政組合白鷹消防分署と隣接した配置を考えております。

---

▼意見7 「■面積表」において、「鉄筋コンクリート造」とありますが、「木造」で、使用する木材は海外からの輸入材ではなく、県産材、できれば白鷹町産の木材にさせていただくと、環境面で負荷が少ない建物になり、地域の資源を活用したもので、地域の活性化も図れる建物になると思います。

「■仕様概要書」において、防災センター等には、詳しい仕様が記載されておませんが、ぜひ、再生可能エネルギーを活用した建物にしていきたいと思います。

例えば、太陽光発電を壁面に設置すれば、冬の降雪の際も、日中の光がさす時は発電ができ、また、小水力発電は水が枯渇しなければ、一日中年間を通して発電が見込まれ、非常時も活用ができます。

これらは、防災面だけでなく、環境に良く、山形県で力を入れている地球温暖化防

止の推進や再生可能エネルギーの利活用を進める上でも、大変貢献できるものと思われます。また、環境教育の面でも大変効果が期待できると思ひます。

さらに、上記にも記載しましたが、建物を町産の木材で建てるだけでなく、町産の木材を薪やチップ、ペレット等の燃料で、建物内の暖房や給湯に使用するようにご検討をお願いします。海外から輸入している灯油と違い、木質燃料は枯渇する心配がなく、防災上も非常に有効であります。実際に東日本大震災の際には、オール電化住宅では、停電のため暖房も調理もできませんでしたが、薪ストーブ等を利用している家庭は暖房や調理ができたということがありました。

▽回答7 白鷹町産材、県産材などの木材利用、また再生可能エネルギーを活用した機械設備等の導入は、今後の公共施設整備に関して重要な視点であると認識しております。今回の計画は、全体のグランドデザインと各施設の概要を示すものでありますが、実際の建設段階では、耐火性、構造、費用、またご指摘ありました環境、教育などの面を多面的かつ十分に検討し、総合的に判断してまいりたいと考えております。

▼意見8

- ・防災センターを設置する意図がはっきり見えない。中央的存在の防災センターを設置する前に、各地区の避難所等の耐震を含めて防災網の整備が先かと思う。
- ・町立図書館を現在の中央公民館2Fより1Fに置き、その上の階におくのはいかがなものか？単に災害があつた場合の災害本部のための施設ならば役場に近接したものが望ましいと思うが、避難した町民を収容する場合も考慮するべきではないか？
- ・災害時のための備蓄品等の保管等も考慮してほしい。
- ・災害時のための自家発電等も考えた施設にすべきであると思う。
- ・町立図書館については現在の場所よりは、駐車スペースをたくさんとりかつ小中学生の利用を考えるとフラワー長井線沿線にあるほうがいいのではないか？またこれから一校になつた後の西中学校の校舎など有効活用してもいいのではないか？

▽回答8 ご指摘いただきました各地区の避難所等の耐震を含めた整備は、今後防災計画をもとに行っていきたいと考えております。その上で、災害時の対策本部として(仮称)防災センターの整備を考えております。

災害時の避難所の指定、備蓄品保管庫、自家発電等につきましては、大変重要な視点でありますので、現在改定中であります「白鷹町防災計画」との整合性を図りながら、今後の建設段階で検討していきたくております。

今回の計画は、現在の敷地内でのグランドデザインと各施設の概要を示すものであります。西中学校の跡地利用、有効活用につきましては、今後検討を行っていきたくております。